

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人トモニ

代表者・役職名 氏名 細江 昌憲

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

高齢者施設等との連携による障害者の社会参加

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

平成24年11月、精神病院、福祉作業所のケースワーカーが中心となり、NPO法人を設立しました。その後、同25年5月に東京都から障害者総合支援法による就労継続支援B型の事業認可を受け、立川市高松町で主に精神障害者を対象に障害福祉サービスを開始しました。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

精神障害者の特性として、疲れやすい、対人関係が苦手、緊張や不安が極度に高くなるなどがあげられます。このため、一般就労がなかなか難しい状況です。しかし、所得を得たい、社会参加したいというニーズは少なくありません。就労以外の社会的な受け皿、それをつくり出す柔軟な発想が求められています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

「得意なこと、好きなこと」を大切にしながら障害者の社会参加をすすめています。その一環として手芸を得意とする障害者が講師として高齢者施設等で教室を開催します。今年度は、市民向けの手芸講座も開催しました。みんなで、楽しく手芸品をつくることで、「ありがとう」という感謝の言葉をもらい、やりがいや生きがいを感じてもらえればと思っています。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

障害当事者が講師となる手芸教室を高齢者施設のほか、立川市から補助を受ける形で市民向けの手芸教室(立川市立高松学習館)を5回、立川市地域活動支援センター(立川社協)で4回、手芸講座を開くことができました。2019年度も助成金を継続していただけたことで、活動域が広がりました。地道な活動ですが、続けることで、地域に根を張りだしたことが実感できました。ただ、残念ながら、新型コロナの影響で、1月以降の教室はすべて中止となりました。

弊法人は常勤3名の小さな規模ですので、講師料(手芸の専門家)を捻出することは非常に厳しい状況です。講師がいることで、その技術を教わるほか、本番でも障害当事者の緊張がほぐれ、失敗を恐れない姿勢が見られました。今後は講師がいなくても当事者だけで教室を開くことを目指します。

また、高齢者施設、市民向け講座で、一緒に手芸品をつくることで、精神障害に対する理解が少しですが進みました。偏見の軽減には共同作業が有効であることが確認できました

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

障害を負ったということで、自信や自己肯定感が非常に低くなってしまった当事者は少なくありません。自信を回復する方法の一つとして成功体験を積み重ねることがあげられます。施設から外へ出て、評価されることはとても良い経験になります。今後は手芸教室で教えることができる当事者(現在は5名)を増やし、地域のイベントなどでワークショップなどを企画する予定です。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

